



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月14日

上場会社名 株式会社白洋舎 上場取引所 東  
 コード番号 9731 URL <https://www.hakuyosha.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 五十嵐 瑛一  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 橋本 裕之 (TEL) 03(5732)5111  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 ( 証券アナリスト向け )  
 (百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	10,108	6.1	△167	—	△116	—	794	—
2025年12月期第1四半期	9,525	1.4	△233	—	△157	—	△67	—

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 838百万円( —%) 2025年12月期第1四半期 △53百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	210.35	—
2025年12月期第1四半期	△17.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	34,968	13,384	37.9
2025年12月期	35,305	12,890	36.1

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 13,236百万円 2025年12月期 12,761百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	30.00	—	50.00	80.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,800	2.6	2,500	4.3	2,700	3.8	2,450	14.8	646.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年12月期1Q	3,900,000株	2025年12月期	3,900,000株
② 期末自己株式数	2026年12月期1Q	149,351株	2025年12月期	107,766株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年12月期1Q	3,778,775株	2025年12月期1Q	3,790,232株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2026年1月1日～3月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした個人消費の底堅さに加え、訪日外国人客数が四半期で過去最高を更新する等、サービス業を中心に緩やかな回復基調が続きました。一方で、継続する物価上昇、米国の関税政策の影響に加え、足元では緊迫化する中東情勢を受けたエネルギー価格の上昇や物流網への影響等、様々な供給面のリスクが顕在化し、先行きが不透明な状況が続いております。

こうした状況下、当社グループは、2024年から2026年までの3ヶ年における中期経営計画において、「構造改革の完遂」「オペレーションの磨き上げ」「マーケティングによる収益力向上」「事業ポートフォリオの最適化」を基本方針に掲げ、事業を通じた社会課題の解決と、持続的な成長軌道の確立を目指しております。

その最終年度となる当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、レンタル事業における法人得意先の堅調な稼働やインバウンド需要に支えられたこと等から、売上高は10,108百万円(前年同四半期比6.1%増)、営業損失は167百万円(前年同四半期は営業損失233百万円)、経常損失は116百万円(前年同四半期は経常損失157百万円)となりましたが、固定資産売却益の計上等により親会社株主に帰属する四半期純利益は794百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失67百万円)となりました。

当社の第1四半期連結累計期間はクリーニング事業の閑散期となるため営業損失となる期ですが、そのクリーニング事業で構造改革が進捗していること、また利益率の高いレンタル事業が好調であること等により、その損失額は年々減少しており、今期は過去最少の損失となっております。同様に営業利益率も、損失期ではありますが本年は△1.7%と前年の△2.5%から改善しております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### <クリーニング>

クリーニング事業は、当社の祖業として長く続く事業構造を転換し、当社ならではの強みを生かしながら、現代のお客さまの多種多様なライフスタイルに合わせた需要をとらえ、収益につなげる施策を進めております。構造改革としては、不採算店舗の閉鎖・移転や営業拠点の集約・統合によるコスト構造の改善を図っております。またマーケティングによる収益力向上の面では、CLP(クリーン・リビング・パートナー/クリーニングに関する知識を持った自社スタッフ)がご自宅までお伺いし集配する、といったクリーニング業界でも当社独自モデルとなる強みを持つチャネルへの資源シフトを進めております。これには集配ルート最適化や店舗の運営体制見直しによる効率向上策も含まれます。また、アプリ導入率は順調に推移しており、従来よりも一層お客さまに寄り添ったサービスを、より高い収益性の元でご提供するための施策が進捗しております。

こうした中で、クリーニング事業の第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は店舗閉鎖の影響はあるも2025年4月に実施した料金改定の効果もあり、2,836百万円(前年同四半期比0.2%増)と増収を維持。第1四半期連結累計期間の特性によりセグメント損失(営業損失)は、410百万円(前年同四半期は営業損失489百万円)となっておりますが、前年から79百万円の増益達成とともに、営業利益率も改善しております。

#### <レンタル>

レンタル事業は、主に法人のお客さまを対象とし、ホテル・レストラン等のリネン品を取り扱うリネンサプライ部門と、コンビニエンスストアや外食産業、食品工場等のユニフォームを取り扱うユニフォームレンタル部門の2つの部門があり、それぞれの部門において、レンタル品のクリーニングや在庫管理、集荷・配送といったサービスを総合的にご提供いたしております。

まずリネンサプライ部門においては、わが国のインバウンド需要の拡大等により市場の活性化が継続して進んでおり、これが今後も見込まれる一方で、事業としては必須となる大規模な工場の収益性の改善が課題となっております。そのため中期経営計画では、工場における原価管理の徹底・工程の改善や、業務協力会社との連携強化による効率改善、また原材料費が高騰する中での得意先ホテルに対しての適正な価格改定交渉等に取り組んでおります。

一方、ユニフォームレンタル部門においては、食品工場等における衛生意識の高まり等を背景に当社のISO22000認証工場によるサービス提供が国内大手企業の需要維持・拡大につながる状況にあります。この事業は当社の高品質・高付加価値のサービスにより既に高収益モデルとなっておりますが、市場の低価格化競争が激しく、需要の拡大と収益力の維持が課題となっております。そのため中期経営計画では、工場の効率改善や新たな生産枠の創出、デジタルマーケティングによる新規獲得、さらにISO22000に続く新たな付加価値として、サステナ商品としての循環型ユニフォームリサイクルスキームの構築等を進めております。

こうした二つの事業からなるレンタル事業の第1四半期連結累計期間の売上高は、7,019百万円(前年同四半期比8.0%増)となり、セグメント利益(営業利益)は、売上連動経費の増加はあるものの収益効率の改善も進み、770百万円(前年同四半期比17.1%増)となりました。

#### <不動産>

不動産事業では、当社所有不動産の賃貸および管理を行っております。

不動産事業の売上高は121百万円(前年同四半期比0.2%減)、セグメント利益(営業利益)は99百万円(前年同四半期比3.9%増)となりました。

#### <その他>

その他の事業として、クリーニング業務用の機械・資材等の販売を行っております。

その他事業の売上高は、クリーニング機械の販売増加により130百万円(前年同四半期比75.5%増)となりましたが、セグメント利益(営業利益)は12百万円(前年同四半期比26.9%減)となりました。

なお当社グループは、この2026年3月に創業120周年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに、お客さまをはじめ株主・取引先の皆様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ336百万円減少し、34,968百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金の減少411百万円等により346百万円減少し、13,280百万円となりました。

固定資産は、繰延税金資産の増加41百万円等により9百万円増加し、21,687百万円となりました。

また、流動負債は、短期借入金の増加295百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少1,993百万円等により1,804百万円減少し、10,152百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の増加831百万円等により973百万円増加し、11,431百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加600百万円、自己株式の増加149百万円等により494百万円増加し、13,384百万円となりました。

自己資本比率は前連結会計年度末の36.1%から37.9%へ増加いたしました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想につきましては、2026年2月13日に発表いたしました2026年12月期の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,543	1,162
受取手形及び売掛金	4,571	4,160
棚卸資産	6,790	7,178
その他	735	792
貸倒引当金	△12	△13
流動資産合計	13,626	13,280
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,373	20,842
減価償却累計額及び減損損失累計額	△15,968	△15,519
建物及び構築物（純額）	5,404	5,322
機械装置及び運搬具	10,183	9,969
減価償却累計額及び減損損失累計額	△8,488	△8,274
機械装置及び運搬具（純額）	1,695	1,695
土地	6,205	6,132
リース資産	4,484	4,563
減価償却累計額及び減損損失累計額	△3,348	△3,380
リース資産（純額）	1,135	1,183
その他	1,380	1,389
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,249	△1,242
その他（純額）	130	147
有形固定資産合計	14,572	14,481
無形固定資産		
投資その他の資産	354	360
投資有価証券	3,002	3,039
差入保証金	737	738
繰延税金資産	1,636	1,678
退職給付に係る資産	1,373	1,383
その他	66	71
貸倒引当金	△65	△64
投資その他の資産合計	6,751	6,845
固定資産合計	21,678	21,687
資産合計	35,305	34,968

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,625	2,695
短期借入金	1,688	1,983
1年内返済予定の長期借入金	4,174	2,180
未払法人税等	424	348
賞与引当金	183	344
その他の引当金	31	37
その他	2,830	2,562
流動負債合計	11,956	10,152
固定負債		
長期借入金	3,112	3,944
役員退職慰労引当金	32	32
役員株式給付引当金	92	99
環境対策引当金	60	60
退職給付に係る負債	3,528	3,564
資産除去債務	467	462
その他	3,163	3,267
固定負債合計	10,457	11,431
負債合計	22,414	21,583
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	1,567	1,567
利益剰余金	7,318	7,918
自己株式	△323	△473
株主資本合計	10,972	11,422
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,037	1,059
為替換算調整勘定	△6	20
退職給付に係る調整累計額	758	734
その他の包括利益累計額合計	1,789	1,814
非支配株主持分	128	148
純資産合計	12,890	13,384
負債純資産合計	35,305	34,968

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	9,525	10,108
売上原価	8,659	9,056
売上総利益	866	1,052
販売費及び一般管理費	1,099	1,219
営業損失(△)	△233	△167
営業外収益		
受取配当金	6	7
受取補償金	21	26
為替差益	44	45
持分法による投資利益	8	—
その他	49	46
営業外収益合計	129	125
営業外費用		
支払利息	51	60
持分法による投資損失	—	14
シンジケートローン手数料	0	—
その他	2	0
営業外費用合計	53	74
経常損失(△)	△157	△116
特別利益		
固定資産売却益	—	1,179
投資有価証券清算益	—	15
特別利益合計	—	1,195
特別損失		
固定資産処分損	12	2
特別損失合計	12	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△170	1,075
法人税、住民税及び事業税	52	300
法人税等調整額	△176	△37
法人税等合計	△124	263
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△46	811
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	16
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△67	794

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△46	811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	21
為替換算調整勘定	48	4
退職給付に係る調整額	△27	△23
持分法適用会社に対する持分相当額	△75	25
その他の包括利益合計	△7	26
四半期包括利益	△53	838
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△78	819
非支配株主に係る四半期包括利益	24	19

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント			合計 (百万円)	その他 (注1) (百万円)	調整額 (注2) (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) (百万円)
	クリーニング (百万円)	レンタル (百万円)	不動産 (百万円)				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	2,831	6,497	—	9,329	74	—	9,403
その他の収益	—	—	121	121	—	—	121
外部顧客への売上高	2,831	6,497	121	9,451	74	—	9,525
セグメント間の内部 売上高又は振替高	173	3	16	194	311	△505	—
計	3,005	6,501	138	9,645	386	△505	9,525
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△489	657	95	263	17	△514	△233

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントでありクリーニング業務用の機械・資材等の物品販売を取扱う事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△514百万円には、セグメント間消去21百万円、各セグメントに配賦していない全社費用△536百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント			合計 (百万円)	その他 (注1) (百万円)	調整額 (注2) (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) (百万円)
	クリーニング (百万円)	レンタル (百万円)	不動産 (百万円)				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	2,836	7,019	—	9,856	130	—	9,987
その他の収益	—	—	121	121	—	—	121
外部顧客への売上高	2,836	7,019	121	9,977	130	—	10,108
セグメント間の内部 売上高又は振替高	198	2	15	216	302	△519	—
計	3,035	7,021	137	10,194	433	△519	10,108
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△410	770	99	459	12	△639	△167

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントでありクリーニング業務用の機械・資材等の物品販売を取扱う事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△639百万円には、セグメント間消去16百万円、各セグメントに配賦していない全社費用△655百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前中間連結会計期間より、従来報告セグメントに含めていた「物品販売」事業は、重要性が乏しいことから、報告セグメントに含まれない「その他」セグメントとしております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載してあります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 自 2025年1月1日 至 2025年3月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2026年1月1日 至 2026年3月31日
減価償却費	296百万円	310百万円